

## 2018(平成30)年度 山梨学院 学生チャレンジ制度 認定企画一覧

整理No.	代表者	団体名等	人数(名)	企画タイトル	企画目的・概要
1	法学科4年 オウ ジンキョウ 王 仁 僑	翻訳パネル	13	甲府をはじめ、山梨の魅力を中国人に宣伝しよう	甲府の老舗をより多くの中国人観光客に宣伝したいと考えて、この企画を提案した。中国人留学生の視点から読み取っている甲府の情報、また、同留学生一人ひとりの独特の考え方も反映し、甲府のアピールを行って、甲府の観光のさらなる活性に尽力したいと考えている。
2	政治行政学科3年 サノ ナオキ 佐野 直樹	江藤 ゼミナール 有志B	6	昭和町ワークショップでの昭和町への政策提言	本グループは、昭和町における計画体系条例の制定を目指す。市町村の地域の指針となるべき総合計画が、現在、上手に活用されていない。そのため、特に甲府市や昭和町のように影響力の大きい市町村では、大きな発展へのチャンスをつぶしてしまっているといえる。もし、昭和町にこの条例が制定された場合、多くの市町村が注目し、山梨での指針となり得る。また、山梨県の発展に大きくつながっていくと期待される。
3	政治行政学科3年 ハダ コウタ 羽田 航太	山学ウォーカー	11	高校生・大学生に本学の魅力を伝える学内・学外広報誌	在学生向けに学内広報、また、学生募集のターゲットの一つである高校生向けに学外広報を企画する。具体的には、本学教員、学生、制度、活動の魅力を、対象に深く入り込んだ取材によって再発見し、得られた情報や知見を魅力的にデザインして紙媒体・動画媒体によって学内外に発信することを目的とする。 最終的な成果物としては、学内広報用のリーフレット(年1回、1500冊)及び動画、学外広報用のパンフレット(1回200冊、年4回)及び動画を予定している。
4	経営情報学科4年 ヤマモト ヒロキ 山本 広貴	個人	1	本学学生向けカレンダーサービス用授業スケジュール登録データ生成ソフトウェアの開発	本学で使用している学習管理システム「manaba」には、履修した授業が時間割として登録されるが、予定を管理する機能は無い。サークル、アルバイト等の予定も含め、一つのカレンダーサービスで管理することを可能とすることで予定管理が容易になる。しかし、授業の予定をカレンダーサービスに一つ一つ手動で追加するのは不便である。そこで、その手間を省くためのソフトウェアを開発する(「manaba」にログインすると、「manaba」から授業名、曜日、時間帯等を取得し、Googleカレンダーに追加する。そのためのCSVファイルを自動で生成する内容のもの)。また、開発したこのソフトウェアをWebアプリとして公開し、多くの学生に使用してもらい、授業に対する意識を高く保てるようにする。
5	現代ビジネス学科3年 シモガマ コウシロウ 下釜 紘士郎	伊東 洋晃 ゼミナール	14	パラアート・コンテストの企画・運営 ～障がい者アートを商品に！～	障がい者の方々が社会とのより深い関わりを実感し、自立への意思をより強めるきっかけをつくることを主たる目的とする。そのために、長崎大学の中西善信ゼミナール及び榊NOVELとの協働により、パラアート・コンテストの企画・運営を行う。なお、コンテスト入選作品は、来春発売予定の丸型スーツケース「Snail」のデザインとして採用される。 この企画を通して我々は、コンテストという長期間に渡る特殊なイベント事業のマネジメント・プロセスを学ぶことはもちろん、障がい者の方々と彼らを取り巻く状況に対する理解を深めるとともに、多様な人や組織との関わりを通じて社会人基礎力を養うことを目的とする。
6	現代ビジネス学科3年 マスザワ アカリ 増澤 あかり	SSA	8	学生が作る 新聞型フリーペーパー ・マチコレキャンパス	現在、多くの若者が抱えている「社会への不安」、「企業への無知」等の問題を少しでも解決できるように、若者向け新聞型フリーペーパーを作成する(大学名は入れない)。これにより、同問題の根幹である「若者の新聞離れ」の緩和に影響を与えようと考えている。また、株式会社ニュースコム様に配布を担って頂けるため、影響力、話題性にも期待できる(約21,000部予定)。若者間で、共に問題を解決していくための活動である。
7	スポーツ科学科3年 ツツキ リュウイ 續木 龍偉	YGU サイクルイベント プロジェクト	7	「タンデム自転車」普及プロジェクト	タンデム自転車*の競技者人口の拡大を目指し、サイクルイベントの企画、運営及びサポートを行う。本企画では、「障がい者スポーツ、スポーツ科学、健康栄養学」等、山梨学院大学で学習したことと自転車競技とを関連させて、パラサイクルを広める活動を行う。また、他団体のサイクルイベントに参加しサポート活動を行い、そこから様々なノウハウを身につけ、自分たちの企画するイベントの質の向上につなげていく。 <small>*タンデム自転車 複数のサドルとペダルを装備。複数人が前後に並んで乗り、同時に駆動できる自転車。</small>
8	スポーツ科学科3年 フジワラ ユウジ 藤原 優司	小山 ゼミナール	14	ゆるスポーツ振興	老若男女、スポーツが得意な人、苦手な人、健康者、障がい者等、すべての人が同じように楽しむことのできる「ゆるスポーツ」の振興を目指す。具体的には、様々なスポーツを楽しむことができるイベントを開催し、また、そのための研修を行う。イベント開催は、本学と地域住民をつなぐ機会でもあり、新たな交流の場になることも期待できる。 現在、国が推進する「一億人総スポーツ社会」の実現には、幅広い年代が楽しめるスポーツ活動の推進が求められている。その一つの形が、ゆるスポーツ振興であると考え、その推進を図ることを本企画の目的としている。
9	短期大学 食物栄養科2年 ナカジマ マコト 中嶋 誠	はばたミルクゼミ	3	ジャージーミルクらあめん・ グレードアップ計画	昨年度の「セロリ香る贅沢！ ジャージーミルクらあめん」(「牛乳料理コンクール」山梨県大会、関東大会の双方で最優秀賞を獲得)を、さらに美味しく仕立て直す。特に、県産食材をより多く使用することで、さらにオリジナリティーを高め、乳製品普及の社会貢献活動も見据えて、本学短期大学食物栄養科の看板メニューとして外部へ積極的にアピールできるレシピとする。
10	短期大学 食物栄養科2年 ワタナベ コノカ 渡邊 このか	根津 ゼミナール	3	非常時の食への備え	地震災害等、非常時でも温かい食事を摂ることができることを目的とした企画である。最低限の水を使い、誰でも美味しくできる「卓上コンロを使用した料理のレシピ集」を作成する。また、幼い子どもがいる家庭を想定した「あったらいいな！便利非常用品パンフレット」や、「非常食レシピ」にも取り組みたい。そして、卓上コンロ以外にも、小枝や牛乳パックを火種にした調理器具を使用した温かい料理レシピも作成したい。市販非常食の試食会を行い、アンケート調査も行って、非常時に食べる際の注意点も検討したい。
11	短期大学 保育科2年 カナガワ カヤ 金川 佳耶	遠藤 清香 ゼミナール	12	物語の世界を冒険しよう	障がいのある子どもたちが通う施設や園に、学生が出向いて、子どもたちに劇遊びの機会を提供する企画である。 未就学時期に、劇や音楽等、様々な表現活動にふれることは、子どもの成長発達に欠かせないものである。この企画を通し、障がい児施設の子どもたちに、多様な人との関わり合いの機会を提供し、感受性を育むことができると考える。 具体的には、保育科で学んだことを生かし、子どもたちに手遊び、歌、またオペレッタ等を行い、そうした表現に親しんでもらうことを目的とする。